

平成28年度行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	児童福祉事業助成			担当部局庁	社会・援護局 障害保健福祉部			作成責任者	
事業開始年度	昭和37年度	事業終了(予定)年度	平成29年度	担当課室	障害福祉課障害児・発達障害者支援室			津曲 共和	
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	「在宅心身障害児(者)療育事業等助成費補助金について」等				
主要政策・施策	障害者施策			主要経費	社会保障				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	心身障害児(者)、保護者、及び施設職員等に対し、相談・療育指導、療育研修等を行うことにより、心身障害児(者)等の福祉の向上を図ることを目的とする。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	<ul style="list-style-type: none"> 在宅心身障害児(者)及び保護者に対する相談、療育指導 在宅心身障害児(者)の保護者、ボランティアを対象に、専門家による講義、実技指導等の療育研修 在宅の障害児及びその家族に対し、医師等の療育担当者が宿泊をともにし、基本動作の指導及び機能訓練等を行う 等 補助率:定額(10/10)								
実施方法	補助								
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
		補正予算	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
		計	46	42	39	37	0		
	執行額	46	42	39					
	執行率(%)	100%	100%	100%					
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 29 年度
	心身障害児(者)等の福祉の向上を図るため療育研修に1,997人の参加	療育研修の参加人員	成果実績	人	1,474	2,002	集計中	-	-
			目標値	人	2,937	2,857	2,346	-	1,997
			達成度	%	50	70	-	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	療育研修実施回数	活動実績	回	40	40	集計中	-		
		当初見込み	回	40	40	40	40		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	療育相談実利用者数	活動実績	人	14,945	13,426	集計中	-		
		当初見込み	人	14,500	14,500	14,500	14,500		
単位当たりコスト	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	x:「療育研修費」/y:「研修実施回数」	単位当たりコスト	円/回	51,125	51,475	50,500	50,500		
		計算式	x/y	2,045,000/40	2,059,000/40	集計中	2,020,000/40		
単位当たりコスト	算出根拠		単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込		
	x:「相談事業費」/y:「療育相談実利用者数」	単位当たりコスト	円/回	1,625	1,548	1,471	1,548		
		計算式	x/y	24,282,000/16,258	22,451,000/14,500	集計中	22,451,000/14,500		

平成28・29年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	民間社会福祉事業助成費補助金	37							
	計	37	0						
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	必要な保健福祉サービスが的確に提供される体制を整備し、障害者の地域における生活を支援すること							
	施策	障害者の地域における生活を支援するため、障害者の生活の場、働く場や地域における支援体制を整備すること							
	測定指標	定量的指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度
		実績値	-	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	障害児(者)、保護者、及び施設職員等に対し、相談・療育研修等を行うことにより、障害者等の生活の場、働く場や地域における支援体制の整備を図ることができる見込んでいる。								
	改革項目	分野:	-	-					
	(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
		成果実績	-	-	-	-	-	-	-
目標値		-	-	-	-	-	-	-	
達成度		%	-	-	-	-	-	-	
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
	成果実績	-	-	-	-	-	-	-	
	目標値	-	-	-	-	-	-	-	
	達成度	%	-	-	-	-	-	-	
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	本事業は、心身障害児(者)保護者及び施設職員等に対し、相談・療育指導、療育研修、親子ふれあいキャンプなどの事業を行うことにより、心身障害児(者)等の福祉の向上等を図ることを目的としているため、社会のニーズを的確に反映している。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業は、障害者基本法に基づき、同法の規定では国による障害者の自立及び社会参加の支援等のための施策を総合的かつ計画的に実施する責務が定められていることから、国が実施すべきであると考えられる。	
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業は、心身障害児(者)保護者及び施設職員等に対し、相談・療育指導、療育研修、親子ふれあいキャンプなどの事業を行うことにより、心身障害児(者)等の福祉の向上等を図ることを目的としているため、優先度の高い事業である。	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	全国心身障害児福祉財団は、長年の活動実績があり、障害のある子どもとその家族への支援についてノウハウやネットワークを有している団体であるため、支出先の選定は妥当と考える。	
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無		
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無		
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-	
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	研修の参加人数の増加に伴い単位当たりコストが減少したため、前年度に比べてより妥当な水準を満たしたものと考えられる。	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	専門性を有する事業者へ必要な経費のみ支出されているとともに、毎年度、事業実施報告により実施状況を把握しており、合理的なものとなっている。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	本事業は、心身障害児(者)保護者及び施設職員等に対し、相談・療育指導、療育研修、親子ふれあいキャンプなどの事業を行うことにより、心身障害児(者)等の福祉の向上等を図るために真に必要な経費に限定している。	
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-		
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	当補助金では想定されない財産処分等の制限に関する条文を削除し、文書の簡素化を図った。		
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	成果実績は、成果目標の70%程度であり、前年度よりも良い数字となったことから有効性は高くなっている。	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	家族等に対し、相談支援を行っている団体が実施することにより、より身近な支援を提供できる手段を講じていることから実効性がある。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	活動実績は、ほぼ見込み通りとなっている。	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	全国心身障害児福祉財団の支援のノウハウを活かし、研修等を通して、支援に携わる職員の質の向上を図っている。	
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	○	本事業は心身障害児(者)等の向上を図ることを目的としているが、こちらの関連事業は児童福祉司の人材養成を行うこと等により、児童福祉の増進に寄与することを目的としているため、分野が分かれている。	
	所管府省・部局名	事業番号		事業名
	厚生労働省(雇用均等・児童家庭局)	683		民間社会福祉事業助成費補助金
点検・改善結果	点検結果	本事業は心身障害児者やその家族等に対する福祉の向上を目的として実施しているもので、活動実績も概ね見込みどおりとなっている。		
	改善の方向性	前年度よりも成果目標の達成度は高くなっているが、いまだ成果実績と成果目標に差があるため、今後も研修の開催方法を検討しつつ、引き続き予算の適正な執行に努める。		

外部有識者の所見

行政事業レビュー推進チームの所見

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	501	平成23年度	454	平成24年度	397		
平成25年度	756	平成26年度	754	平成27年度	770		

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

(平成27年度実績見込額)

厚生労働省 39百万円

[在宅の心身障害児、その保護者に対する相談事業等に要する経費を支弁]



【補助】

A(福) 全国心身障害児福祉財団 39百万円

[在宅の心身障害児に対する相談事業等を実施。]

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

